

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成27年 1月10日
(30号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本真弓



伊勢神宮 宇治橋前

謹んで新年の
お慶びを申し上げます

(原文)

凡生為人。宜知人所以異於禽獸。蓋人有五倫。而君臣父子為最大。故人之所以為人忠孝為本

吉田松陰『士規七則』より

(書き下し文)

凡そ生まれて人たれば、宜しく人の禽獸に異なる所以を知るべし。蓋し人に五倫有り、而して君臣父子を最も大なりと為す。故に人の人たる所以は忠孝を本と為す。

(現代語抄訳)

およそ人として生まれたのならば、人の禽獸と異なる所以を知るべきである。そもそも人には五倫があり、その中でも特に父子の親と君臣の義を最も大なりと為す。故に人の人たる所以は忠と孝を本と為す。

五倫Ⅱ父子の親、長幼の序、君臣の義、夫婦の別、朋友の信

「士規七則」より

「人と禽獸との異なるゆえん」

われわれ人間は、自己がこの世に生まれ出た真の意義を知り、自らの使命を自覚して、いささかでもこれを実現しようとするところに、人と禽獸との真の本質的な違いがあると言わねばしよう。
ですから、今われわれ人間にして、人生の意義の何たるかを知らず、したがってまた自己の生涯をいかに過ごすべきかに考え至らないとしたら、本質的には禽獸と、何ら異なるところのないものとも言えましよう。

森信三先生『修身教授録一日一語』より

○

寺田一清先生は、「人と禽獸との異なる点」について――、

★言葉の有無 ★道具を使うか否か ★理性的判断の有無と板書くださり、決定的な差は、生涯を照らす(ひかりの有無) 叡智、と解説頂きました。

また「知・情・意」について情は根本、知は情の体系化、意は情の持続化と解説頂き、改めて人と生まれてきたことの自覚を新たにいたしました。



人間学講座
第30講

「生きる基本を考える」

上甲 晃先生



■ 一次情報で学ぶ

青年塾で私がいつも言っていることは「一次情報で勝負しろ」。

一次情報とは、私しか持っていない情報のことです。キーボードを叩けばすぐに膨大なデータが得られます。確かに膨大な情報ではあるが、それはだれでもが取れる、人と同じ情報です。みんなと同じ情報だと、みんなと同じことしか考えられない。それを否定はしませんが、それ以上に大切にしなければならぬのは、自分の個性を大事にすること、つまりは、私しか持っていない一次情報です。

一次情報を手に入れるには、パソコンに向かう前に「現場に向かえ」青年塾では、現地現場が教室です。毎回開催場所が違いますが、まず現場に赴く、そして現実を直接この目で見る。この手で触る。この体で空気を感ずる・・・そうして考えたことは「私しか持っていない情報」です。青年塾では、この一次情報で学ぶということをやっていました。それを教えてくれたのは松下幸之助です。

当時、松下政経塾の役員会は、幸之助を理事長にして、テレビでしか見たことのないような錚々たる有名人が来られるのですから、大変な心遣いをして準備をしました。特に気を遣ったのが昼食の弁当です。カタログを集め下調べをし、弁当の写真まで撮って決裁をもらいに行ったところ「君この弁当食べたんか?」。

「食べていません」「なぜ大事なお客さんに出すものを、自分で食べてみんのか」とひどく叱られました。実際に自分で食べてこそ、お客さんに喜んでもらえるものが選べる。「そうやって選ぶ弁当は、弁当と共に君の心が伝わる。それが魂の入った仕事やで。君の仕事には魂が入っていない。だから値段以上の値打ちは出んのや」。カタログから得られるのは二次情報にす

ぎない。自分で実味わって初めて一次情報になる。そういうことを徹底して教えられました。

松下幸之助は、「新商品を発売するときにも、必ず抱いて寝た」と言われます。それぐらい商品への思いがあった。頭で学ぶことはすぐに忘れませんが、一次情報で学ぶと心に刻まれます。

魂の入った仕事は、現地現場で全身をもって学ぶことが基本でなければなりません。

■ 己の損得を越える

政経塾でくり返し政治家を目指す諸君に言い続けてきたことは、「己の損得を越えろ」の一点です。「自分一身の損得を越えて、みんなの損得を考えられる人間になれ」と。

それが志です。政治家は自分の選挙や出世のために、人を犠牲にすることを平気でやります。だからこそこの一点をくり返し言い続けてきました。

その私に松下電器本社への転勤を言われたのが平成8年のことです。同期からは出世



頭だと言われ、私自身「松下電器の重役の椅子も悪くないな」と思いました。しかし次の瞬間あれほどまで「己の損得を越えろ」と塾生に言っていた私なのに、自分自身のことになると、さつさと本社に戻り出世競争に目の色を変えている。これでは申し開きがたんと思えました。人の上に立つ人間、人を導く立場にある人間において一番恥ずかしいことは、「言っていることと、やっていることが違うこと」このときそれを身に沁みて感じました。立派なことは誰もが言える。部下も子どもも生徒も世間も、絶対その人の言葉をもって信用するのではない。人はどこを見ているか。言っていることと、やっていることの間を見ているのです。本気でなければ人は育たない、本気でなければ人は

動かない。人生の勝負どころで常に本気かどうか問われてくる。私はこのとき、しみじみと言葉に対する責任があると感じました。そして松下電器を辞めることを決意したのです。

■ 松下幸之助の人づくり

青年塾でバン格拉デシュに行くたびに、バン格拉デシュの若者の目の力に比べ、日本の若者の目の力の無さを知らされます。目の力とは意志の力です。人間は強い意志を持つと目に力が入る。バン格拉デシュの若者たちは、なんとかこの貧困を抜きたい、と強い意志を持っている。私は若者の「志力回復」を人生のテーマにし、これに懸けています。

青年塾も十九期を迎えますが、常に話しているのは、「人生は思い以上の結果は出せない」ということ。あなたの人生の結論は、あなたの思い・意識の中にある。だから大きく思うことが大切なのです。大きく高く思うと努力も大きなものになる。しかし小さく思えば、努力も小さくなり、結果もまた臭いものになってしまう。

若い人は人生の持ち時間が多く、壮大な計画も描けるのです。人生のエネルギー源はその気になることです。富士山の隣に家があつても「その気」にならない限り、富士山には登れない。登れるのは「登ろう」という気を持った人だけです。すべての出発点、命のエネルギー源はその気になることなのです。

青年塾で育てたいのは学力エリートではなく「人間エリート」。それは松下幸之助の人づくりであり、私が政経塾、青年塾を通し一貫した思いであります。それは要するに人間性を養うということ。幸之助は「松下電器は電気製品をつくる会社であるまに人間をつくる会社」と言いました。どれほどの知識も技術も資格道具にすぎない、それを使う人間が立派でない限り、絶対に良い仕事はできない、と言っています。仕事において、そして人生においてなにより大切なのは人間力を高めること、つまりは人間としての魅力を高めることなのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ 討議会》

上甲 晃先生の講義を拝聴したあと、講話の内容について、塾生各々がグループに分かれ討議、感動語録を発表しました。

【Aグループ】

- ① 志を持つ三つの条件
- (1) 人生のテーマを持つ
- (2) 言行一致
- (3) 生きる原理原則
- ② 一流の人間は弁解しない
- ③ みんなのために自分の力を差し出す

④ 一次情報で勝負する

【Bグループ】

- ① 一次情報で勝負し現場・現場を大切に
- ② 人生のテーマを持つ
- ③ 生き様を残す
- ④ 受け入れ難い人に向かう対処するか
- ⑤ 自ら変わる

【Cグループ】

- ① 一次情報で勝負
- ② 自ら変わる勇氣
- ③ 人生のテーマを持つ

【Dグループ】

- ① 人生のテーマを持つ
- ② 生きる原理原則を持つ
- ③ 言行の一致 原理の一致

【Eグループ】

- ① 一次情報(現場)
 - ② 一流の人間は弁解しない
 - ③ 自分の思い以上の結果は出せない
- ↓強い思いを持つように努力する



【読書会 Aグループ】

- ・進行 北嶋紀子 塾生
- ・テキスト 森信三先生「二語一会」
- ・指導 寺田一清先生

12月2日

人は他との比較をやめて、ひたすら自己の職務に専念すれば、おのずからそこに一小天地が開けてくるものです。

12月6日

人間晩年になって仕事を与えられるということは、真に忝い極みと思わねばならぬ。待遇の多少などもちろん問題とすべきではない。

12月8日

生まれたものには必ず死ぬ時があり、来た者には必ず去る時があります。また会う者は必ず別れるべき時のあるのは、この地上では、どうしても免れることのできない運命といってよいでしょう。同時にもしそうだとしたら私達も自分が去った後の置き土産というものについても、常に心を用いる所がなくしてはならぬでしょう。

12月16日

われわれ人間は、この肉体をもっている限り、「業」の根切りは、真に容易なことではありません。しかしながら、「奉仕」の実践により、次第に業根が細っていくことは確かなようです。



【読書会 Bグループ】

- ・進行 吉野秀則 塾生
- ・テキスト 「ありがとうございます」
- ・指導 中川千鶴子 副代表

「言葉の通りに、思いの通りに、すべては成る」というのが、宇宙の法則です。最高の祈り言葉「ありがとうございます」を、日常茶飯事に唱え続けることは、神様と一体の自覚を深めてゆくための、一番優しくて、効果のある方法です。

人は環境に慣れると、いつしか感謝を忘れ、不平・不満・不足の心を起こしがちです。だからこそ感謝の心・本心に
○ 戻るためには、逆境も必要なのです。

人間の本当の心とは、歓喜の心なのです。人間の本性は、
○ 歓喜そのものです。歓喜の心を自由に解放すれば、苦しみは消えるのです。

すべての幸せは、感謝の中に存在しているのです。感謝
○ の心とは、本心の自分のことです。感謝すれば、本心の自分が呼び出されてくるのです。

五欲の心の奴隷になるな！。五欲とは財欲・名誉欲・色欲・食欲・睡眠欲のことです。五欲の奴隷状態から解放され、自由になるためには、宇宙の大神様と一体の自覚・本心の自覚を深めてゆかねばならないのです。



《お薦め書籍》

『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺和子 著



発行 幻冬舎
単価 一〇八〇円(税込)
ISBN-10: 4344021746

今の境遇に対してマイナス思考となっていないませんか。雨風が強い時、日照り続きで無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降りて根を張るので。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。この本に書かれた素敵な多くの言葉に自分自身を見失っていた事に気づくことが出来ます。何かに迷った時、心が折れそうになった時に読んでみて下さい。

《先哲に学ぶ》

東井義雄先生

「一所懸命」

一つの所に力を集めて
一所懸命、という
指の先の小さな力でも針の先の一点に
集まると固いものと貫く力になる
君の力と一点に集中してがんばれば
どんなことだってできる



(『東井義雄 一日一話』より)

《二月 第三期 人間学塾・中之島》

■基本カリキュラム

- *日時 2月14日(第二土曜)
- *受付 午後0時30分より
- *場所 大阪大学中之島センター 10F
- *講師 横田南嶺老師
- *課外講座 午前10時30分
前月講座DVD放映

「禅の教に学ぶ」

《春季宿泊研修の案内》

- *日時 3月14日(土)～15日(日)
- *場所 金沢市
- *講座 金沢星陵大学女子短期大学学舎
- *講座 14日第一講 寺岡 賢先生

「神話に学ぶやまとのこころ」
第二講 寺田一清先生

15日課外学習(先師記念館探訪)
☆金沢ふる里偉人館

☆西田幾多郎・八田與一他

☆鈴木大拙館
☆兼六園

*宿泊 都ホテル金沢

※13日は、北陸新幹線長野～金沢間が全線運行開始の記念日です。混雑が予想されますので、早めの準備をお願いします。

《住所変更のお知らせ》

吉田東良 塾生

〒五五三〇〇〇三

大阪市福島区福島一―四八―三〇〇七

TEL 〇六―七五〇四―七九九三

《淀川掃除に学ぶ会》 短信

世話人 志村隆夫

本年もよろしくお願ひ申し上げます。
1月4日(日曜日) 午前8時に集合の掃除の会は、幸いにも天候に恵まれ風もなく穏やかな幕開けとなりました。

総勢25名で収集しましたゴミ袋は、18個と思ったより少ない量でした。

河川敷公園入り口の道路中央に雑草がたくさん生い茂っていましたが、地元の方々の協力も頂いて、刈り取ることが出来、スッキリ致しました。

1月元旦、2日は、雪模様の寒い年明けでしたが、4日は、本当に恵まれたお掃除日和となりました。

また、いつも有馬から、おにぎり・お茶を差し入れてくださっている石丸郁江様が、去年の暮れに、脑梗塞で病に伏せておられるというのを伺い、たいへん心配しております。

今月早々に、有志の方々がお見舞いに行かれるとお聞きしております。

▼問合せ 〇九〇―一八九四―一七六五(小西)
〇九〇―七五五五―八七七七(志村)

